

第2回義務教育学校教育課程検討委員会【会議要旨】

1. 開催日時 令和3年8月31日 19時～20時30分
2. 開催場所 山村開発センター研修室
3. 参加者 委員12名（欠席1名（神庭委員）） 事務局2名
4. 報告
 - (1) 第1回義務教育学校教育課程検討委員会議事要旨（資料配布）
5. 協議
 - (1) 学年の区切りについて
 - ・以前に比べ、子どもたちの発達が早い。5年生からの教科担任制。4年、7年、9年でリーダーとなり、リーダーシップを育てる。
 - ・適切に活用するという考え方もおもしろい。教員が指導しやすい区切りがよい。
 - ・小5、中2がポイントになるのでは。6年生での卒業式はなくなるが、4年で1／2成人式をしたりすることで区切りができる。
 - ・小6から中1になったとき、よい変化とよくない変化が起こった。中学校に入ってから試行錯誤する姿を見るのはきついところがあったので、中1ギャップ（段差）が少しでも低くなればよい。
 - ・一定期間やって区切りを変える学校もある。対外的にははっきりとした区切りがあるが、ある程度してから区切りを考え直すのもありか。教科担任制を導入するとなれば、高学年を中学校へのつなぎにする。
 - ・複式学級では、4年生が急にリーダーとして成長するように感じるので、4年で区切るのはよい時期ではないか。中1ギャップにフォーカスしすぎるのもどうか。中学校の3年間はそれぞれに段差が大きい。8、9年で将来に向けて……。意外と子どもは順応するのではないか。
 - ・中学生の姿が見えないと、どう立ち回ってよいか分からないので、中学生の姿が見えるようにしたい。4年生までの間に基礎基本を。地域に対して無邪気に関わっていけるのは4年生ぐらいまで。5年以上は専門的な教科担任で、評価も中学校並みに。7年で区切るかどうか。中2からは本格的に進路に向けた取組になるのでは。保育所の年長も半年くらい含めて考えてもよいのでは。

- ・今の制度との違和感を少なくする。児童会と生徒会のあり方も。英語の特性を考えれば・・・
- ・今のままだとストレスはないだろうが、義務教育学校にする意味は？ブロックで何をするのかが重要で、2つの学年でリーダー性を育てるというのもいかなものか。
- ・小学校と中学校が一緒になるので、今の制度のままだともったいない。中1ギャップの段差を少なくする。3つに区切るよりも2つに区切る方がよいのでは。
- ・小学校と中学校で評価の仕方が違う。同じブロックであっても、教科担任制や相互乗り入れは可能。
- ・5年生をどちらのブロックにつけるか。自分で学ぶ姿を身につけるには、5年から9年の5年間で考える方がよいのではないか。
- ・発達段階を考えると、4年で区切るのがよいのではないか。4年生でリーダー性を養うことができる。
- ・教員が9年間を見通すことができれば、中1ギャップは解消できるのか。
- ・小学校と中学校の教員の間には意識の差がある。小・中の教員の交わる場はつくられるべき

※委員の意見は

4－3－2制	5名	4－2－3制	1名
4－5制	1名	5－4制	3名
6－3制	1名		

◎まずは4年で区切ることとし、その後の区切りについては、引き続き検討する。

(2) 各ブロックのめざすところについて

◎引き続き検討する。

6. その他

(1) 検討委員会開催予定

- ・PTA組織のあり方については、PTAに任せる。

(2) 次回委員会

- ・9月22日(水) 19時 会場：大集会室